

ケニアSATREPS稲作研究プロジェクトの進捗状況

ケニアで2013年5月22日より実施している地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）「テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」では、ケニアの稲作安定化に向けた品種改良と栽培技術開発のための研究を現地で行うため、ケニア農畜産業研究機構ムエア支所の研究環境を整備し、研究技術のケニアへの移転と研究人材の育成を進めています。これまでの現地調査および栽培試験からは、ムエア灌漑地区では耐冷性が必須の形質であること、土壌へのCaやMgの集積によるK不足の問題があること、不十分な灌漑水を有効に使い生産性を向上するための節水栽培技術の確立が重要であること、同地区の潜在生産力は極めて高く、適切な水および肥培管理により、品種によっては10 t ha⁻¹以上の高収量を実現できることなどが分かってきました。さらに、現地のいもち病菌レースの病原性や土壌環境に応じた耐旱性関連根系形質とその能力発現に必要な施肥レベルなどについても解明が進んでいます。また、耐旱性、耐冷性、耐塩性、低肥沃土壌適応性、いもち病抵抗性、高収量性などに関わる量的形質遺伝子座（QTL:quantitative trait locus）を交配とDNAマーカー選抜などの技術を使って導入したケニア向けの育種材料の育成も概ね計画通りに進んでいます。今後は、これまでに整備したストレス耐性評価圃場を活用し、有望系統の選抜を進めるとともに、遺伝子型×栽培環境×栽培管理の相互作用の解析を通して、品種のストレス耐性や生産性に関する能力を十分に発揮させるための栽培技術の開発に取り組む予定です。（横原大悟）



ケニア農畜産業研究機構ムエア支所キログ農場における収穫作業の様子

離任挨拶

山口奈々恵 事務補佐員

約8年間勤務させていただき、退職することになりました。農国センターは非常に活発な職場で、採用以来忙しくも大変貴重な毎日をごさささせていただきました。

在職中は多くの先生、研究員、学生さん、関係者の皆様方と交流させていただき、感謝しております。また引込み思案だった私が、明るく積極的な先生方や学生さんとの関わりを持たせて頂いたお陰で、国際交流や海外出張等にチャレンジし新しい自分を発見できました。これらは私にとってかけがえのない財産です。

農国センターの皆さんは活動的で、特に学生さんは目がキラキラしているのが印象的でした。お体に気をつけてご活躍いただくことを願っております。皆様大変ありがとうございました。



着任挨拶

河本善子 事務補佐員

6月よりセンターにて勤務しております。教員の皆様が各々プロジェクトを推進され、国内外に大きく貢献されると同時に留学生を含む大勢の学生さんを育てておられ、そのエネルギーなご活躍振りには、ただ驚くばかりです。現在も教えていただくことの方が多くお手数をお掛けしておりますが、一つ一つ覚えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



中塚道代 事務補佐員

10月1日に着任いたしました。着任から日が浅く、また初めて経験する仕事もあり、不慣れなことも多いため、日々、周りの職員の方々、先生方に支えていただきながら、業務を行っています。新しい経験を重ねることで、早く仕事に慣れ、今後は、微力ながら、みなさまのお役に立てるように、尽力したいと思っておりますので、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

